

附属生命医学研究所



総合研究施設

総合研究施設は、附属生命医学研究所の共同利用研究部門として所属講座にかかわらず研究者が広く利用できる施設です。

セルソーター、質量分析器、電子顕微鏡、DNAシークエンサー、次世代シークエンサー、3Dプリンター、各種の蛍光顕微鏡など、最新の機器が揃っており、オープンラボ形式の臨床系総合研究施設も設置し、本学の研究活動を支える中心施設となっています。



アイソトープ実験施設

アイソトープ実験施設は、放射性同位元素を用いて研究するための共同実験施設です。

施設内には、液体シンチレーションカウンターやガンマカウンターの放射線測定器をはじめ、細胞や小動物に放射線照射をするためのガンマ線照射装置、最新のイメージング危機であるSPECT/CTやX線透視装置などが揃っており、基礎的な実験から小動物のイメージングまで幅広い実験が可能です。



実験動物飼育共同施設

実験動物飼育共同施設は、社会的・科学的に適正な動物実験を保障するための環境を整備し、実験動物を飼育しています。

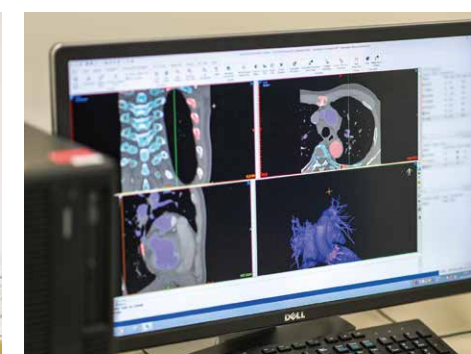
施設には、SPFおよびコンベンショナルな環境での各種動物の飼育室の他に、実験室、胚操作室、検疫室などを備え、本学でも動物実験によって、再生医学・免疫学・神経科学・幹細胞生物学等の分野で数多くの画期的な成果が得られています。

関西医科大学 大学院医学研究科 博士課程

入学相談 随時受付

メールや電話でも
気軽にお問合せください

学位取得に向け多様なサポートを行っています。
自身の研究を深めて医療人としての
キャリアアップを図りませんか。



令和8年度
博士課程
募集

一般入試 通常4年コース

社会人入試 通常4年コース・長期履修5年コース

外国人入試 通常4年コース〈第一次募集のみ〉

	第一次募集	追加募集※
定員	50名	
出願資格審査書類 受付期間 ※出願に際し資格審査が必要な場合があります。	令和7年10月14日(火)～ 令和7年10月24日(金)	令和7年12月15日(月)～ 令和7年12月26日(金)
願書受付期間	令和7年10月14日(火)～ 令和7年11月21日(金)	令和7年12月15日(月)～ 令和8年1月23日(金)
入学試験期日	令和7年12月6日(土)	令和8年2月7日(土)

※第一次募集で定員に達した場合は追加募集を実施しません。

募集要項はホームページに掲載していますので、ご参照ください。 <https://www.kmu.ac.jp/juk/>



関西医科大学 医学部事務部 大学院課
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号
TEL 072-804-2305 (内線 2225)
E-mail gradumed@hirakata.kmu.ac.jp

《大学院課受付時間》 平日 午前9時～午後5時10分 / 第1・3・5土曜日 午前9時～午後1時

医学研究の分野で 社会に貢献！ 医療人としての キャリアアップ！ 研究者として 世界に羽ばたく！

多様なバックグラウンドを持つ学生をサポートする体制が整っています。

授業料免除制度

基礎社会系・教養系研究分野の学生、社会人学生（医師、歯科医師免許を保有しない者、または臨床研修医及び研修歯科医）は授業料が免除されます（収入の審査があります）。

社会人コース

各種医療機関、官公署・民間会社等に在職しながら学ぶことができます。関西医科大学系列病院に勤務されている助教等の方も、社会人コースの対象となります。

長期履修制度

標準修業年限は4年ですが、社会人等、研究時間に制限のある方は5年間で学位を取得することができます。授業料の合計は通常4年間のコースと同額です。

本学では、幅広い分野の最先端機器を揃えた総合研究施設と最新鋭の実験動物飼育共同施設を備えているほか、臨床研究支援センターも設置しています。医学部棟と附属病院が隣接しており、基礎研究、臨床研究ともに進めやすい環境が整っています。

ハード面、ソフト面双方を充実させた大学院は、高度な専門知識と研究能力を有した指導的立場に立つ医師・研究者を育成していきます。

CAREER PASS キャリアパス



学生 納付金

- 入学金 200,000円
- 授業料(実習費込) 500,000円(年額) ※長期履修制度の場合は 400,000円(年額)
- 学生教育研究災害傷害保険加入料(4年間) 3,300円 (5年間長期履修) 4,050円

INTERVIEW

新入生インタビュー

形成外科学
(令和7年度 入学)

第1学年 上田 貴之

形成外科医として勤務する中で、再生医療や創傷治癒の研究の重要性を実感し、診療で生じた疑問を学術的に探究したいと考え大学院へ進学しました。入学前から学会発表や論文執筆に取り組んでいましたが、より体系的な学びを求め博士課程に進みました。現在は創傷治癒促進に関する研究を行っています。本学は、臨床業務と両立しながら柔軟に研究に取り組める環境が整っており、オンライン講義や支援体制も充実しています。多様な分野の院生と交流する中で日々刺激を受け、新たな視点を得ています。今後も基礎と臨床をつなぐ研究を継続し、患者さんの治療に貢献していきたいと考えています。

INTERVIEW

修了生インタビュー

消化器内科学
(令和6年度 修了)

佐野 泰樹

私は約8年間、消化器内科医として臨床に従事してきました。大学卒業後、研修医を経て消化器肝臓内科で経験を積み、令和3年に博士課程に入学しました。入学時点では臨床経験はあるものの研究についての知識は皆無でした。博士課程では潰瘍性大腸炎における血小板活性化と粘膜炎症の関連性について基礎研究を行い、CD62Pを介した血小板-単球複合体形成が炎症重症度と相関するという新知見を得ました。クリニカルクエスチョンをリサーチクエスチョンに落とし込み、先行論文を読み込んで仮説を立て、実験方法を設計し、実際に手を動かしてデータ収集・解析を行い、考察するという論文作成の一連のプロセスを習得できたことが大きな収穫です。また統計学的知識をじっくり学ぶ時間を確保でき、様々な研究の本質を吟味する能力が身につきました。博士課程の魅力は、臨床の疑問を基礎研究を通じて科学的に解明できる点にあります。診療と研究の両立は容易ではありませんでしたが、得られた視点は医師としての情報検索力や本質を捉える能力向上にもつながりました。今後は臨床研究に基礎研究的要素を加えながら、自身の臨床現場で抱いた疑問を解決していくことで、炎症性腸疾患の病態解明と新規治療法の開発に貢献していきたいと思っています。

CURRICULUM

PICK UP

カリキュラム

選択必修コース

3つのコースに分かれ、定期的なコースミーティングや年に1度のリトリート(合宿)を行います。自身の研究について、様々な教員から研究分野の垣根を越えてアドバイスを受けることができます。

- がん研究コース
- 人体の構成と疾患研究コース
- 臨床・疫学研究コース



ダブルディグリープログラム(トリノ工科大学/ヴェネツィア・カポスカリ大学)

トリノ工科大学及びヴェネツィア・カポスカリ大学と、医工学などの分野で共同研究を推進し、ダブルディグリープログラムの協定を結んでいます。本プログラムに入学した大学院生は約1年間の交換留学を行い、所定の年限で修了した場合は本学と留学先の大学の両方の学位が授与されます。



がんプロフェッショナル養成プラン(がんプロ)

本学は「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」に参加し、関西圏の複数の大学と連携しながらがんプロ事業を展開しています。大学院ではがん専門医療人材を養成するための4つのコースを設けており、がんに特化した専門知識を習得し、自身の研究を深めることができます。

- 地域がん医療課題克服型腫瘍学コース
- 高精度個別化放射線腫瘍学コース
- 特定集団特化型がん緩和医療コース
- 新規治療法開発を目指す
人材育成のための創薬研究コース



文部科学省採択事業
次世代のがん
プロフェッショナル養成プラン